

令和元年6月21日現在

機関番号：12608

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K18193

研究課題名(和文)大名屋敷奥向における空間構成に関する研究

研究課題名(英文) Research on the space composition of various edifices existing within the principal section of women's sector in the daimyo residences

研究代表者

服部 佐智子 (HATTORI, SACHIKO)

東京工業大学・環境・社会理工学院・研究員

研究者番号：20614126

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：将軍家の女性の住まいと大名家の女性の住まいの比較対象として、実際に入奥した将軍家の娘の嫁ぎ先である御三家・御三卿の奥向を取り上げ、大名屋敷における女性の生活空間について、部屋構成、付属する設備空間、室内意匠、実態を含めた建築空間を包括的に検討し、御三家の紀州徳川家江戸中屋敷本御殿大奥において、江戸城御本丸大奥と同様な部屋構成、使われ方がみられたのに対し、御三卿の一橋邸大奥において、御簾中の生活空間として近傍で生活を完結できるよう整備されていた一方、江戸城本丸御殿大奥にみられた対面・接客空間が整備されていなかったことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上層武家住宅の女性の生活空間に関する研究は限定的で建築空間と女性の生活の実態との関係は明らかにされていない。それに対し、女性の生活空間の部屋構成、設備空間、室内意匠、使用実態を包括的に検討する本研究は、従来、男性の生活空間に付属する空間として、曖昧な印象論で語られてきた女性の生活空間の解明に資するものであり、今後の建築史研究の領域を拓げる意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：Taking up women's sector in the Tokugawa-related families residences, called Gosanke and Gosankyō, we comprehensively examined the room space, the attached equipment space, the interior design, and the architectural space including the actual situation about the living space of women in the Daimyo residence.

Women's sector in the second residence, called nakayasiki, of Kishu residence, is similar to women's sector in the Edo castle in room composition and usage. On the other hand, it was clarified that the audience spaces seen in Edo Castle was not maintained although facilities were maintained as a living space for women's sector in Hitotsubashi residence.

研究分野：日本建築史

キーワード：大名屋敷 上屋敷 御三家 御三卿 奥向

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、近世上層武家住宅における女性の生活空間について研究を進めている。殿舎の具体的な機能を検討した近世上層武家住宅の主な研究において、女性の生活空間を取り扱ったものとして、藤原恵子らの庄内藩江戸屋敷と庄内藩鶴ヶ岡城本丸御殿の奥向に関する研究が挙げられるが、殿舎の平面構成から、機能分化のありかたを検討したもので、御殿を構成する各部が実際どのように使用されたかは扱われていない(藤原恵子ほか「近世大名居館の奥向殿舎の構成について：庄内藩を事例として」(『日本建築学会東北支部研究報告集・計画系』2005)。さらに、江戸城本丸御殿大奥(以後、「大奥」と表記)における室内意匠については、小粥祐子氏の一連の研究が挙げられる(小粥祐子「幕末期における江戸城本丸御殿大奥松御殿の室内意匠について」(『日本建築学会学術講演梗概集』,2008)「万延度江戸城本丸御殿大奥に用いられた唐紙の色について」(同書,2009)。これらは本研究に重要な示唆を与えるものであるが、室内意匠の総合的な検討、さらに空間と生活の実態との関係は明らかにされていない。このように、女性達の生活と建築空間との関係に着目したものは見受けられず、その概要は判明しているものの、具体性をもって穿鑿されているとはいえない。

申請者は上記の問題点を踏まえ、研究課題「女性の生活空間としての江戸城本丸御殿大奥および大名屋敷にみる空間構成の実態と変遷(平成24年度から26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(若手研究(B)))において、「大奥」の比較対象として、大名屋敷の典型である金沢城二の丸御殿や加賀藩江戸上屋敷を取り上げ、部屋構成、付属する設備空間、室内意匠から空間構成を検討している。その結果これまでに、加賀藩本郷上屋敷において、徳川将軍の娘が大名に入興する場合に建設された、将軍の娘の居住空間「御守殿」では、姫の逝去に伴い撤去されたにも関わらず、格式の高い座敷飾や室内意匠を備え、複数の部屋を用途ごとに使い分け、一定の規範の基に建てられていたと考えられ、「大奥」に近い構成であったのに対し、藩主の家族の居住空間「御本宅」では、「御居間」で日常生活が送れるよう床飾・柵飾が整備されており、「御居間」で寝食を初めとしてその周辺で生活を完結できるよう整備された金沢城二の丸御殿の奥向に近い構成であったことを明らかにしてきた。すなわち、金沢城二の丸御殿御奥向では、国許での女性達の頂点として藩主の生母が位置付けられ、加賀藩江戸上屋敷奥向では、正室が頂点として位置付けられていたという違いがあるにも関わらず、部屋の構成として「御居間」がその周辺で生活を完結できるよう整備されていたという共通点が見い出された。従って、金沢城二の丸御殿や加賀藩江戸上屋敷の空間構成から鑑みると、「大奥」や大名に入興した将軍の娘の居住空間を含め将軍家の女性の住まいと大名家の女性の住まいでは、女性の生活空間に対する計画理念の違いがあるのではないかと予測される。

### 2. 研究の目的

本研究では、これまでの「大奥」の研究を継続させるとともに、「大奥」との対比をみるために、大名屋敷における女性の生活空間について、部屋構成、付属する設備空間、室内意匠、実態を含めた建築空間を包括的に検討する。具体的には、将軍家の女性の住まいと大名家の女性の住まいの比較対象として、実際に入興した将軍家の娘の嫁ぎ先である御三家・御三卿の奥向を取り上げる。

これまでの研究により、加賀藩では「御守殿」は婚儀すべき命を受け建設され、姫の逝去に伴い撤去されたことから、「御守殿」が将軍の娘の住まいという限定された用途で建築されたことを鑑みると、「御守殿」と大名家の女性の住まいは住まい手による空間構成の違いをもたらした可能性が考えられる。さらに、将軍の娘が入興するにあたり、絵図及び関連史料が残されている可能性が高く、室内意匠や実態を読み解く有益な史料が豊富にあるといえる。従って、これまで推進してきた加賀藩と同様に部屋構成の検討が可能以上に、これまでの研究において、見出された、設備空間・室内意匠・実態から空間構成を包括的に捉える手法で検討することが可能であると考えられる。

本研究は部屋構成、設備空間、室内意匠、使用実態を包括的に捉えるため、空間構成を評価する指標として設備空間や室内意匠の検討を導入している。特に、この設備空間や室内意匠への着眼点は、使用する者の性別や身分を示す一指標となり、平面からは把握できない生活の在り方や生活観・社会通念の変化を捉えられる。すなわち、建築的形態による空間構成に留まらず、上記のような検討を通して定義付けられる空間がどのように織り成されるかを明らかにできる新たな研究手法を提示する点で独創的である。

上層武家住宅の女性の生活空間に関する研究は限定的で建築空間と女性の実態との関係は明らかにされていない。それに対し、女性の生活空間の部屋構成、設備空間、室内意匠、使用実態を包括的に検討する本研究は、従来、男性の生活空間に付属する空間として、曖昧な印象論で語られてきた女性の生活空間の解明に資するものであり、今後の建築史研究の領域を拓ける意義をもつ。

### 3. 研究の方法

本研究では、近世上層武家住宅における女性の生活空間として、実際に入興した将軍家の娘の嫁ぎ先である各藩の奥向を取り上げ、「大奥」に関するこれまでの研究成果を踏まえた上で、新たに史料調査で収集した各種絵図史料や文献資料を基に、分析を行う。

具体的には、水戸藩については、第3代藩主徳川綱條の嗣子徳川吉孚が第5代将軍徳川綱吉

の養女・八重姫を娶り、第8代藩主徳川斉脩が第11代将軍徳川家斉の七女・峰姫を娶り、第10代藩主徳川慶篤が第15代将軍徳川家慶の養女である線姫を娶っている。尾張藩については、第2代藩主徳川光友が第2代将軍徳川家光の娘・千代姫を娶り、第10代藩主徳川斉朝が第11代将軍徳川家斉の長女・淑姫を娶っている。紀州藩については、第3代藩主徳川綱教が第5代将軍徳川綱吉の長女・鶴姫を娶り、第10代藩主徳川治宝が第10代将軍徳川家治養女・種姫を娶っている。このように、各藩において複数の時代に将軍家の娘が嫁いでいることから、経年的違いについても検討を行う。本研究では、将軍家の娘の嫁ぎ先である御三家・御三卿の奥向について、これまでの研究成果を基に、全国に所蔵されている各種絵図史料や文献史料を収集し、以下の分析を行う。

・御三家・御三卿の奥向について、収集した絵図史料を基に、主として部屋構成、配置などの検討項目について分析を行う。

・御三家・御三卿の奥向について、収集した文献史料を基に、主として設備空間の仕様、室内意匠、用例などの指標を用いて、計画理念を明らかにする。

・御三家・御三卿の奥向について、それぞれの結果を統合し、近世上層武家住宅における女性の生活空間の実態について明らかにする。

#### 4. 研究成果

##### (1) 近世上層武家住宅の女性の生活空間としての御三家屋敷奥向にみる空間構成の実態

江戸の大名屋敷は、上屋敷、中屋敷、下屋敷、抱屋敷など様々な機能を持った屋敷があった。御三家の一つである紀州藩では、『南紀徳川史』『東京都千代田区紀尾井町遺跡調査報告書』によると、藩主の居宅として、上屋敷である麹町邸及び中屋敷である赤坂邸が機能し、4代頼職から10代治宝までの時期、主な居屋敷は赤坂邸となっていたことから、上層武家住宅の女性の生活空間として、紀州藩江戸中屋敷大奥を取り上げた。紀州藩中屋敷本御殿大奥について詳細を示す絵図として、『御本殿表奥大奥御廣敷四分計御絵図』（和歌山県立博物館所蔵）がある。大奥の殿舎構成を大別すると、御簾中の居宅部分、男性役人が大奥の事務・警護を行う御広敷、女中の生活する長局となる。そのうち大奥の生活において中枢となる区画は、御簾中の居宅部分と捉えることができる。また大奥における藩主・御簾中の生活の在り方を表す指標として、時代や制度に関係なく生活をする上で必要不可欠な各殿舎に付属する設備空間として御湯殿や便所を指摘できる。御湯殿や便所は御湯殿や便所近傍の部屋を使用する者が使用すると考えられることから、御湯殿の配置は御湯殿の近傍の部屋で生活する者がいることや身分を示す一指標と捉えられ、便所の配置は御用場近傍の部屋を使用する者の性別や身分を示す一指標と捉えられる。そこで、近世の上層武家住宅における女性の生活空間という観点から、御簾中の居宅部分について、部屋構成、部屋の近傍にある御上り場・御湯殿の有無、部屋の近傍にある女性便所・男性便所の有無、座敷飾の種類、長押の有無を明らかにした。紀州藩江戸中屋敷御本殿大奥において、御対面所・御座の間といった格式の整備された対面・接客空間及び、新御座敷、御小座敷、御客の間といった私的な空間から構成されていた。

紀州徳川家江戸中屋敷本御殿大奥における年中行事は、『南紀徳川史』に収められている「御簾中様年中行事作法」「御簾中様年中行事作法」を用い、年中行事に使用された室とその用例に着目すると、年中行事において多く使用されている室として、御対面所や御座の間が挙げられる。これらの室はいずれも上段・下段のある、座敷飾を備えた室であり、対面・接客空間として整備されたと捉えられる。もっとも格式の高い座敷飾を備えた御対面所の用例をみると、年始の儀礼及び節句における御目見得以上の女中の藩主及び御簾中への拝謁が行われている。一方、御座の間の用例をみると、年始の儀礼後の食事、式日での御目見得以上の女中の藩主及び御簾中への拝謁、御月見の酒宴、昔勤めていた比丘尼衆の御目見得が行われている。このように、年中行事によって、御対面所・御座の間の使い分けが行われていたことがわかる。この他、年中行事に使用された室として、御使座敷・御広座敷がある。これらの室は、いずれも女中の役務空間にあり、藩主が女中の遊戯の観覧しているのに対し、御簾中は御簾越しに眺める形をとっていることから、年中行事が行われる場所により、御簾中の参加の仕方が異なっていたと考えられる。

複数の室が用いられた御雑拝見の事例から、より詳細な室の使い方をみていく。蔓延2西年3月3日、4日の記録をみると、「倫宮様御用人 御医師 御広敷御用達 御雑為御対面所通御休息御化粧之間 宮様御化粧之間にて御用人へ 御目見被 仰付御内々御人形被下候（中略）同4日御年寄 御側向一統」とあり、男性役人や医師も御雑拝見をしていたことが読み取れる。つまり、大奥の御対面所・御休息・御化粧之間まで、男性役人や医師が入室していたことがわかる。さらに続きに下記の通り、男性役人が御雑拝見した時の大奥の各室での対応が述べられている。閲覧場所ではない「御小座敷」、その上階に該当する「御二階御三階」が含まれ、雑を拝見しない室については、室の戸締りを行っていたことが読み取れる。御小座敷、その上階の2階、3階が切なのに対し、御対面所では切がとけ、ゆっくりと拝見できたということから、閲覧の室とそれ以外の室の区分けが戸締りによってきっちりとなされていたことが読み取れる。男性の入室に対し、行事に使われない室を戸締りする工夫がみられた。

このように、年中行事の用例に着目すると、紀州徳川家江戸中屋敷本御殿大奥において、最も格式の高い座敷飾を備えた御対面所では主な年中行事で藩主や御簾中への対面の場として用いられていたのに対し、御座の間では式日などの日頃の対面に用いられ、江戸城御本丸大奥と

同様な使われ方がみられた。

## (2) 近世上層武家住宅の女性の生活空間としての御三卿屋敷奥向にみる空間構成

御三卿は江戸時代において將軍家の身内であり、尾張・紀伊・水戸の御三家といった大名とは異なり、將軍家の「厄介」、すなわち「家族」の一員であって、分家独立して一家を形成したものでなかった。後述するように、將軍の娘が大名に入奥する場合に建設された、將軍の娘の居住空間である、御守殿に関連する公儀からの拝領金、拝借金をみると、公儀依存の体質が読み取れる。このような関係から、これまで検討してきた江戸城本御殿大奥の比較対象として、近世上層武家住宅における女性の生活空間として、御三卿の一つである一橋邸を取り上げた。

一橋邸大奥の平面が描かれた絵図として、「大奥御住居替絵図面」・「一橋屋敷絵図」(何れも茨城県立歴史館所蔵)が挙げられる。「大奥御住居替絵図面」は「有来」「御修復」「新規御建継」で塗り分けられた3枚の絵図からなり、「新規御普請并御修復等坪数二付」(茨城県立歴史館所蔵)、「外御庭絵図面」(茨城県立歴史館所蔵)を併せて検討すると、天明元(1781)年2代治済の長男豊千代(後の11代將軍家斉)が將軍世子として江戸城西丸に入り、その正室となる島津重豪の娘茂姫が同年閏5月19日に一橋邸大奥へ一時的に入ることとなり、大奥が改築されたときの絵図であると考えられるものの、長局や広敷の記載はなく、改築される部分を中心に描かれたものと考えられる。

「大奥御住居替絵図面」から読み取れる御簾中の生活空間として、「御休息」・「御三階」が挙げられる。また天保6年(1835)の5代齊位と11代將軍家斉の娘永姫との婚姻にあたり、永姫の住まいである御守殿の建設時か、それ以降の改築の際の絵図であると考えられる「一橋屋敷絵図」をみると、御簾中の生活空間として、「御休息」・「奥御休息」が挙げられる。「大奥御住居替絵図面」・「一橋屋敷絵図」のどちらにもみられる「御休息」の近傍には御湯殿、御上り場があることから、大奥の主である御簾中が日常生活を送る場所であり、個人用御湯殿を持ち、近傍で生活を完結できるよう整備されたと推察される。男性用御用場の位置から、「御休息」・「奥御休息」は、当主が出入りし、当主の家族と一定の生活を過ごしたと推定される。また「御錠口御遊所規定」(茨城県立歴史館所蔵)に「御用場之儀如何可有之哉。尤奥番より定め而可伺義とは奉存候得共、先相伺候。御表と御一所二而は。御七箱之処如何可仕哉、大奥え可被為入候哉。」という規定があり、翻刻された辻口達也氏によると、天明元年(1781)閏5月に治済長男豊千代將軍家治の養子となったため、同年7月治済二男力之助が一橋邸嫡子(6歳)と認められ、これから力之助が大奥を出て、表向きの生活を始めることになり、この規定を設けたものと推定している。このことを勘案すると、「御休息」にある男性御用場は当主用もしくは御簾中の子供用に整備された可能性も考えられる。このように、一橋邸大奥において、御簾中の生活空間として「御休息」という空間が近傍で生活を完結できるよう整備されていた一方で、江戸城本丸御殿大奥にみられた対面・接客空間が整備されていなかったことを明らかにした。

本研究を通じて、將軍の娘の嫁ぎ先である御三家・御三卿の江戸屋敷奥向を対象に研究を進め、江戸城本丸御殿大奥に類似した空間構成との類似性をみてきた。これまでの研究を踏まえ、今後より一層の調査を進め、近世の上層武家住宅における女性の生活空間にみられる空間構成の違いが何によってもたらされるのか、その構成原理を明らかにしていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3件)

服部 佐智子「紀州江戸中屋敷本御殿大奥における部屋構成について」、査読無、『日本建築学会関東支部研究報告集』87号、pp.567-570、(2017)

服部 佐智子「紀州徳川家中屋敷本御殿大奥における年中行事からみた室の機能」、査読無、

『日本建築学会大会学術講演梗概集』(建築歴史・意匠)、pp.5-6、(2017)

服部 佐智子「一橋邸大奥における空間構成について」、査読無、『日本建築学会大会学術講演梗概集』(建築歴史・意匠)、pp.703-704、(2018)

[学会発表](計 3件)

服部 佐智子「紀州江戸中屋敷本御殿大奥における部屋構成について」、日本建築学会関東支部研究発表会、(2017)

服部 佐智子「紀州徳川家中屋敷本御殿大奥における年中行事からみた室の機能」、日本建築学会大会学術講演、(2017)

服部 佐智子「一橋邸大奥における空間構成について」、日本建築学会大会学術講演、(2018)

## 6 . 研究組織